令和５年度　大田区基本構想審議会
第１回専門部会（子ども・福祉）議事録

日時	令和5年8月3日(木)18 時から 20 時
場所	区役所本庁舎2階　201･202 会議室
委員	○　石渡和実　○　澁谷昌史　○　西脇祐司 ○　中島寿美　○　大井公美子　○　押見隆太 ○　岡元由美　○　庄嶋孝広 ※○:出席、欠:欠席
傍聴者	8名

議事日程	開会 1 部会長挨拶 2 議題 (1)現状と課題について(伸ばすべき強みや特に対応が必要な課題等) (2)重要となる施策やその先の将来像について 3 今後の予定･閉会
資料	資料1 事務局資料① 資料2 事務局資料② 資料3 今後の予定 参考資料1 大田区データブック 参考資料2 おおた未来プラン 10 年 「めざす姿」の達成度評価報告 参考資料3 新おおた重点プログラム 参考資料4 大田区基本構想(平成 20 年 10 月)

開会・部会長挨拶
◎齋藤部長
　定刻となりましたので、大田区基本構想審議会専門部会、第1回「子ども・福祉」部会を開催いたします。委員の皆様におかれましてはご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。本日は事務局として、私、大田区企画経営部長の齋藤が議題以外の司会を務めさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
　本日の会議は、ペーパーレスの観点から事務局資料等は机上に配付せず、スクリーンないしモニターに投影する形で進めさせていただきます。任意の資料をご確認いただく際はお手元のタブレットをご活用ください。また、タブレット操作等に不備が生じた際は、近くの事務局職員にお声がけください。
　なお、本日の会議は、会議の様子を撮影・録音させていただき、後日議事録を公開するとともに、区のYouTubeチャンネルで動画として公開させていただきますのでご了承ください。

◎齋藤部長
　それでは、開会にあたり、石渡部会長からご挨拶をいただきたく存じます。石渡部会長よろしくお願いします。

◎石渡部会長
　今ご紹介いただきました部会長を務めさせていただきます石渡と申します、よろしくお願いいたします。私は長く横浜にある東洋英和女学院大学というところで、障害者福祉論ですとか人権論を担当しておりましたが、2年ほど前に定年退職をいたしまして、今好き勝手なことをやっているわがままな年寄りになっております。ですが、その好き勝手の中でも、この大田区の計画につきましてはとても関心を持っております。私、結婚した当初大田区に住んでおりまして、大田区の保育園等にお世話になりまして、大田区の行政にはその頃から非常に関心を持っておりました。基本構想ということなので、ぜひ皆様のお知恵をお借りしながら、より前へ進める大田区をめざしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議題（1）現状と課題について（伸ばすべき強みや特に対応が必要な課題等）
◎齋藤部長
　石渡部会長、ありがとうございました。それでは議題に進んでまいりますので、石渡部会長、以降の進行をお願いいたします。

◎石渡部会長
　それでは本専門部会を進めていくにあたり、専門部会の成立について事務局からご説明をお願いします。

◎野村課長

本日の専門部会の成立につきまして報告いたします。専門部会の成立要件につきましては、大田区基本構想審議会条例施行規則第3条第5項において「部会は、部員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない」と規定されています。

本日の出席状況でございますが、委員8名のうち8名全員が出席しており、定足数を満たしているため本会議が成立していることを報告いたします。

◎石渡部会長

ただいまの報告にありましたように、専門部会が成立していることについて確認いたしました。早速議題に入っていきたいと思います。

議題1「現状と課題について（伸ばすべき強みや特に対応が必要な課題等）」について、事務局から説明をお願いします。

◎野村課長

企画調整担当課長の野村と申します。事務局より議題1に関する資料について説明させていただきます。資料1をご覧ください。今モニターにも映しております。最初に本専門部会が所管する行政分野や専門部会の流れについて説明させていただきますので、資料の3ページをご覧ください。本部会は子ども・福祉部会ということで、データブックの分野では、「人口/子育て/教育/高齢者/福祉/健康・スポーツ/自治体経営」を主な対象分野としております。その他の2つの部会の対象分野は資料に記載のとおりとなっておりますので、検討や議論の際は、本部会の所管分野を中心に行っていただきますようお願いいたします。

続いて、2回の専門部会の流れについて説明いたしますので、資料4ページをご覧ください。まず1回目の本日の部会では、議題1として、基本構想で描く2040年頃の将来像を見据えた場合に、特に伸ばすべき強みや対応が必要な課題について意見交換を行っていただきます。その後、議題2として、議題1で出た強みを伸ばし、また、課題を解決していくために重要となる施策は何か、その施策を進めることでどんな将来の姿が実現できるのかという点について意見交換を行っていただきます。

また、8月31日に予定されております2回目の部会では、前半パートで1回目の部会の結果や区民意見募集の結果を踏まえて、子ども・福祉分野のめざすべき姿について意見交換を行っていただきます。そして後半パートでは、これまでの議論の結果を踏まえ、事務局が用意するフォーマットに落とし込むような形で、第2回基本構想審議会に上げていく本専門部会の意見を取りまとめる、そういった形を想定してございます。なお本日の議題2でも、区民アンケート結果の速報を報告させていただきますが、本日はあくまで一部の結果の速報であり、自由記述意見も含めた詳細なアンケート結果の速報は2回目の部会でお示しさせていただきます。

では資料の5ページをご覧ください。議題1につきましては、第1回基本構想審議会でも説明させていただきましたが、区では、新たな基本構想の策定にあたり、現構想策定時からの15年間の変化や区の特徴などをまとめたデータブックを作成いたしました。データブックには子ども・福祉専門分野とは関連性の弱い分野も記載されておりますので、データブックのうち、特に子ども・福祉部会と関連性の強い分野や記載をまとめたものが本日の事務局資料となります。

資料5ページでは、データブックのうち、子ども・福祉部会と関連性の強いデータブックのページを章ごとに一覧で示しております。この一覧表の順に沿って、本日の事務局資料の6～23ページでは、大田区のこれまでをまとめたデータブック2章の内容を、事務局資料の24～27ページは、大田区のこれからをまとめたデータブック3章の内容を、事務局資料28～33ページでは、区の特徴、強み、現状、課題等をまとめたデータブック4章の内容を記載しております。

いくつか重要なデータ等をピックアップし説明させていただきますと、まず事務局資料6ページ、データブックでは8ページに人口分野のデータを記載しております。ここでは総論部分で、総人口は増加しているものの少子高齢化が進んでいるという事実に言及しております。この点は皆様も周知の事実であり大田区だけの問題ではありませんが、人口に関してやや深刻な問題もございます。事務局資料の7ページ、データブックでは9ページに記載しております左下のグラフをご覧ください。このグラフは5歳ずつの区の転出入を示したグラフです。青色で純移動数を示しているのですが、20～24歳に関してはこの純移動数のプラス値が高く、大きく転入超過にあると言えます。一方で純移動のマイナスが大きいものを見てみますと、0～4歳の部分、それから、30～34歳、35～39歳、このあたりが大きくなっており、このグラフからは小学校入学前のこどもを持つ子育て世帯の転出超過傾向がうかがえます。もちろん家賃の高い23区ではこの傾向は仕方がないことなのかもしれませんが、同じページのすぐ隣、右側のグラフを見ていただきますと、23区を0～4歳の転出超過が多い順に左から並べていますが、大田区は一番左にあり、23区でワーストという結果になってございます。人口分野は子ども・福祉だけに関係する分野ではありませんが、将来の大田区を担うこどもたちが転出しているという問題意識は、3つの専門部会に共通で持っていただきたいと事務局としては考えてございます。

その他の分野でもいくつか紹介させていただきますと、事務局資料8ページ、データブックでは10ページの「子育て」では、グラフの緑色の折れ線で示しております待機児童数ゼロを2021年に達成いたしましたが、次のページ左上のグラフでは、いまだ学童保育の保留児童が一定数いることが示されております。

また事務局資料10ページ、データブック12ページ「教育」では、ページ下段のグラフで児童の体力がコロナ禍以降低下していることが示されておりまして、また事務局資料11ページの左下のグラフになりますが、上昇傾向であった児童の自己肯定感がコロナ禍で一時的に減少するなど、コロナ禍による児童への影響などが見てとれます。

続きまして事務局資料12ページ、データブックでは14ページの「高齢者」分野では、人口の部分でも説明した高齢化率が上昇しているということに加えまして、この次のページの右上のグラフでは、濃い緑の棒グラフで示されている高齢単身世帯数、こちらが薄い緑の棒グラフで示されております高齢夫婦世帯数を2000年頃に上回り、以降その差が拡大してきていることがうかがえます。

また事務局資料14ページ、データブックでは16ページの「福祉」では、生活保護世帯数は15年前より増加したものの近年減少傾向にあること、また次のページの右上のグラフでは、成年後見制度の利用が少しずつ進んでいることなどが示されております。

続いて「健康スポーツ」、事務局資料の16ページ、データブックでは18ページになりますが、65歳健康寿命が延伸傾向にあるというグラフが示されておりますが、一方で次のページの左上のグ

ラフでは、特定健康審査の受診率が特別区平均より低く推移しているといった課題等も示されております。

こうした分野ごとのデータのほかにも、事務局資料20～23ページの4ページにかけまして、またデータブックでは2章の最後44～47ページにあたりますが、23区で唯一空港があるという区の特徴や、その他ホットトピックという形で、羽田イノベーションシティ、新空港線、直近のSDGs未来都市といった区の取組などを紹介しておりますので、将来像検討の際の参考にしていただければと思います。

全てのページの詳細な説明は省略させていただきますが、データブックでは2章、3章、4章という形で、区のこれまでの変化や将来予測、特徴や課題などをまとめております。本日の意見交換でも必要に応じて参考にしていただければと思いますが、ここに掲載されているデータは大田区のごく一部のデータに過ぎません。ご意見をいただく際には、データブックに掲載のない項目に関するものでも全く問題ございません。

本日は、大田区の2040年頃の将来像を描くにあたって重要となる区の特徴や強み、課題は何かというテーマについて、それぞれの立場や知見等に基づき、自由にご意見をいただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

◎石渡部会長

現状と課題について説明をいただきましたが、今のご説明や資料をご覧になって皆様がお感じになっていらっしゃること、大田区としてはここを伸ばすべきと思うことや、ここは特に課題があって対応が必要だというような、それぞれの立場からぜひ議論を進めるためにご意見をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

◎西脇委員

ご説明ありがとうございます。データブックは非常にいいなと思って感心して拝見しておりました、わかりやすくできていると思います。

最初にこの基本構想の検討会でしたか、この前にあったのは。あのときに2040年を目途にするのか、もうちょっと先なのかというような議論もありました。正直18年後でも20年後どちらでもいいのかなと思ったのですけれども、大きな括りで言うと、ここで生まれた赤ちゃんが成人になる頃ですよね、18年後とか20年後。そのくらいで考えたときに、縁があってここで生まれた子が成人になったときに、さらに住み続けたいなと思うまちになっているといいのかなというのが、前回の会議のときに率直に思ったことです。

そういう意味で、先ほどのご説明にもありましたけれどもデータブックの9ページ、左下の転出超過のところが気になったところでございます。さっきご説明があったように、確かに23区に住み続けることはなかなか大変なので、こどもが少し大きくなった時点で引っ越すというのは23区共通の課題なのかなという気はするのですけれども、右側のグラフで大田区が一番多いと。

ただこれはちょっと図が物足りないなと思ったのですが、大田区は人口が多いので、数で出せばこうなるのが当たり前、ということはないのですけれども、割合で出さないと比べられないのではないかなという気はしました。ただ、もっと人口が多い世田谷や練馬よりは数的にも多いという

ことを考えると、安心していいとは思わないのですけれども、割合で提示すべきだなとは思いました。

この辺の理由がちょっと知りたいなというところで、その理由がわかると解決策も見つかってくるのかなということで、まず1つ目の取り上げるべき課題・注目すべき課題としてはやはりここがあるのかなと思いました。

◎石渡部会長

西脇委員、ありがとうございました。ここのところは多分、どの委員も気になっているところかと思います。子育てをして、これからを担ってくれるというような世代が、なぜ転出してしまうのかというあたりについては、この前も住宅費用の問題等出たかとは思うのですが、事務局では何かさらに突っ込んだ分析をしていらっしゃるでしょうか。

◎野村課長

事務局からお答えさせていただきますが、今の右下のグラフは、おそらく大田区で公表したのが今回初めてかと思います。おっしゃるとおり、ある程度、やはり23区である以上仕方がないのではないか、人口が多い大田区で人数が多いのではないかと思っておりましたが、人口が3位であるにもかかわらず、転出超過数がワーストだったという事実は、まさにこのデータブックをまとめたときに、もちろんこれは実際わかっていた職員もいたかもしれませんが、我々が比較をして改めて整理した際に、この事実がわかったものでございます。

まだ現在、この原因が何なのかというところまで深く分析ができておりませんが、事務局からもピックアップさせていただいたとおり、非常にこれは重要な問題ですので、今後構想や計画をつくっていくにあたり、より企画でも部局と連携しながらしっかりこの理由を深掘りしていこうと考えておりますので、またそのあたりがわかりましたら改めてご報告させていただきます。

◎石渡部会長

ありがとうございました。まだ十分な分析ができていないということですので、深掘りできましたらお願いいたします。

今、西脇委員がおっしゃったのですが、成人した頃にこどもたちが希望を持てる。最近のこどもは夢とか希望を持っていないというのが一般的だという報道等もあるので、やはり大田区だったらこれが夢として持てるというのをぜひ何か形にできたらと思います。ありがとうございます。

◎中島委員

子育てしやすいまちにするために、いろいろな分野で事業の転換等を今までやってきたのであろうと思いますけれども、その成果や、その結果どういうマイナスを生んだ、プラスを生んだ、年代ごとにどうなっているのかというようなアンケートを進めていくようにした方がいいなという考えを持っていたのですが、これは区でどういうお考えでおやりになるかわかりませんが、目に見えてこないと、やはり今後の方針なんかも明確に決まりませんので、現実にきちっと取り組む姿勢が大事ではないかと考えております。

◎石渡部会長
　中島委員ありがとうございました。区民の意識ということで、アンケートに関しては実施する方向でよろしいですか？

◎齋藤部長
　転出理由については、実は区民意識調査をやっていまして、そこで理由の記載があるので、今それを出そうと思って探していますので少々お待ちください。

◎石渡部会長
　今、中島委員からは、他にも検討していくにあたって、こういうデータがあった方がよいのではないかというようなご意見があったかと思うのですが、特にどのあたりでしょうか。

◎中島委員
　今まで、同じことを繰り返してやっていたような傾向があると実は思っているのですが、やはりもう少し時代に即応した、世の中の状況に応じたように変化すべきだという考えを持っております。どんなふうにやったらいいかという戦略を立ててやるときは、他の23区の中にもあるのですが、そういう事例となるものなども勉強の一環といたしまして、よく勉強しながら大田区としての特徴を生かすということが一番大事なことですので、そういう考え方を積み重ねていって、みんなで話し合うことは一番大事なのですが、いろいろな分野でいろいろな話をしていきながらまとめていくという方法ですね。これだけの方が集まっておりましても考え方もみんな違いますので、その考え方を一堂に会して、その中でいろいろなよいものをめざすということをぜひやっていただきたいと考えております。

◎石渡部会長
　ありがとうございました。どうぞ、大井委員。

◎大井委員
　違う意見になってしまうのですが、大田区の魅力というところなのですけれども、大田区は町工場もありますし商店街も銭湯も東京都一多いです。文化資産もありますし、自然も豊か。大田区の中でいろいろ魅力的なところがある一方で、面積も広い分、羽田、蒲田、調布地区という、区内の中でも問題が混在しているところで、なかなか一つの方向を定めていくのは難しいかなと思っているのです。
　令和7年度から、小学生が大田区の未来づくりということで、地域のことを学び始めます。メインはものづくりなのですけれども、学校の周辺にあることをこどもたちが探して勉強して育っていきます。先ほどちょっと夢がないかも、とおっしゃっていたのですが、これからこどもたちは多分区内で、夢を見つけてくれるのではないかなと思っておりまして、またコミュニティスクール制度も進んでおりまして、学校が地域の団体さんと一緒に地域で子育てをしていきましょうという形で、教

育で新しい仕組みが始まることを契機として、やはり地域が、もっと学校とかこどものことを向いて、地域で子育てができるような仕組みができればいいかなと思っております。

この点今年、福祉管理課が子どもの居場所づくりという事業をやっているのですけれども、10団体が採用された中で3団体が町会の会館を場所で使っていて、他の2団体は商店街の場所を使っていて、ということで、福祉だから、こどもだからとかではなく、子どもの居場所という形で今回動いているのですけれど、実はここ、暑いときに高齢者の人がお休みになってもいいじゃない、というような、大田区は地域力、国際と言っていますけれど、本当に地域力・地域とは何なのだろうと、ちょっと区民としては考えることがあって。今まで多分ベースで地域力を語られるときは、町会の加入率とか町会ベースであったと思うのですけども、やはりこれから先はイノベーションということを考えると、町会の活動と小学校の活動が掛け算になって新しい効果が出るとか、そういう地域の魅力を掛け算して新しい魅力を発信していけるとか見つけていけるような地域力っていうところに、もうちょっと着目してもいいのではないかなと思っております。以上です。

◎石渡部会長

ありがとうございました。教育の分野で、大田の未来づくりというような企画なのですね。とても魅力的な企画だなと思ってお聞きしてはいたのですが、このあたりについては資料をいただくとか具体的なご説明いただけるような機会はおありでしょうか。

◎中島委員

この件につきましては、学校運営協議会というのが早くから発足しております。これは地域の人間と学校が一緒になって、いろいろなテーマについて話し合う機会が必ずそこに存在しているのですが。なかなかおっしゃるように、学校と地域は全く別なものだという考え方が非常に根付いておりまして、融合させる部分がなかなか見つからないというのは事実なのです。当然教育の場、地域は別でいいのですけれども、学校と地域と何か一緒になってやることがないかということを模索しているのであって、やはり、大人が主張しだすとなかなか融合できませんので、その辺の学校運営協議会でもいろいろな話が出て、やるのですが、どうしても学校では学校の運営がどうなっているかという現実だけの説明に終わってしまうということが多い。そこへ地域がやはり口出しをして、「一緒にやりましょうか」「何かやりましょうか」というような機会がなかなか今まで恵まれておりませんでした。私何十年もやっているのですけれども。やはりそれはちょっと違うのではないかと思っています。その辺が大変難しいことでお互いに、学校は学校、地域は地域という時代ではなくなってきているのだという意識を持つべきだというのが、なかなか払拭できないです。

これからそれじゃいけないということはわかっておりますので、よく話し合いまして、突破口、何でもできることから、やりやすいところからやるということが私の信念なのですが、難しいことを考えてもなかなか人はついてきませんので。1人の考え方でものはできませんから、みんながどういうふうに理解して、みんながどれだけ総出で、みんながどれだけ集まって「よーいドン」でやれるかが大事なことですので、やはり無理をしないでできることからやっていきたいなという考えを持っています。運営委員会という委員会があるということは事実ですので、その相談するような場があるということをお知らせしておきます。

◎石渡部会長

ありがとうございました。私も今のご意見と関連してなのですけれど、例えば、よく言われることですけれども、子ども食堂はこども向けの食事の場であったのが、高齢の方も地域の引きこもりをしていたような方も来て、本当に多世代の交流の場になっている。

私やっぱり大田区のこれからということを考えたときに、多世代間の交流みたいなことができる場所ができて、それぞれの連帯とか立場にかかわらず、何か一緒にやれるといいなと思っています。

そういう中で、3年ぐらい前だったかと思うのですが、東京都の社会福祉協議会が東京らしい地域づくりみたいなことを検討したことがあって、大田区から、大洋社の斎藤理事長が参加して大田の取組を紹介してくれていた中で、大洋社はこどもの支援から始まったのですが、こどもを支えるということで、いろいろな立場の方が連携して、大田区ならではのネットワークができているみたいなお話を聞いたことがあります。やっぱりそういう歴史をさらに前に進める多世代交流と地域の新しいネットワークみたいなものが、何か大田区ではできるのではないかというのは期待をしていまして。多分そのあたりは中島会長さんがよくご存知なのではないかと思うのですけれども、今おっしゃったように学校運営協議会の活用等がさらに進むといいなと思ったという私の意見でもありますが。

◎澁谷委員

私も今の点に関連して、やはり地域力というところが引き続きキーワードになるのかというところで、データ等を見た感想を述べさせていただきます。特にこどもの分野については、子ども子育ての計画の中でもかなり重要と、調査をして取組をしていると。このあたりの取組が遅れると他区の方が保育所に入りやすいとか、手当が出やすいとかというところで、割とそうした情報が行き渡ることで住民移動も起こってくるところがあると思うのですが。

大田区の中でもこれだけ変化が激しい中で、行政の方たちはいろいろ取組をしていただいているかなと。それにもかかわらず子育て世代の人口移動が起こっているというところは課題としてあるので、そのあたりがどのあたりなのかなというのは一つやっぱり関心を非常に持っているところです。

それと同時にこの中の福祉のところで、やっぱり8割以上の区民が地域活動等への参加意欲を示しているところは、非常に注目するところかなと思っております。公的にいろいろなサービスを用意して、こどもを産み育てやすい地域をつくるというところも一つこれから大事になってくる。国でも2030年が人口減少の歯止めのための大きな転換期だということで、新しい戦略をつくって施策を動かしているところですけれども、そこにどう区は国が描いているような施策を区に取り込んでいくのかというのも大事なのですが、そのときにやっぱりいろいろな方たちの力が必要になってくると思います。

すでにこどもの分野でもまちの保健室とかまちの相談室っていう形で、できるだけ中学校区でファーストコンタクト、気軽に立ち寄れるような場所をつくろうというようなところはキャッチフレーズにしながら進めてきていますし、高齢者分野では地域包括支援センター、やはり中学校区とい

うことを一つ目安にしながら進めているのですけども、まだまだそれでも追いつかないと。この追いつかないところを、行政、公的な施設だけではなかなかカバーし切れないだろうし、あるいは社協さんもすごくコミュニティ、ソーシャルワーカーの方が頑張って、いろいろなネットワークをつないでいるのですけれども、やはりそれだけでは足りないので、子ども食堂をやっているような団体であるとかをバックアップしながら、NPOとして育てていく。このあたりのところを向こう20年ぐらいでできるかどうかが非常に大事なところかなと思っております。

当然、法の力も大事ですし、すでにあるいろいろな施設や機関の力も必要なのですけれども、住民の人たちが自分のまちのことをどうやってつくっていったらいいか、力を形にしていく。潜在力はやはりこうした意識調査の中でも表れていると思いますので、このあたりに着眼をしながら、基本構想を描き、今後の計画・施策作りのところをしっかり橋渡ししていくのは、一つ大事なところだと見ております。

◎石渡部会長

大事なご指摘ありがとうございました。私も8割が関心を持っていることはすごく強みだと思いましたし、あと、企業の社会貢献というところで結構企業とつながっていたりするというのも、企業をリタイアした後に地域というところで、とても強みではないかなと思いました。ありがとうございます。岡元委員どうぞ。

◎岡元委員

冒頭の西脇委員がおっしゃった、どうして子育て世代が転出超過なのかというところで、ここの部分については子育て支援策というのは特に個人的にも議会で訴えてきたところで。その中で大田区としては、待機児童ゼロを実現し、まだスタートしたところですけれども、小・中学校給食費の無償化、また高校生までの医療費の無償化とか、そういう形で進んでいるにもかかわらず転出超過というところは、本当にしっかり分析をしなければいけない。その中には、残念ながら大田区が進めてきた、私自身も一番進めてきました産後ケアみたいなことがないのですけれども、そういったところ、何が原因なのかしっかりと分析もしていきたいと思っています。

その上で、先ほどありました地域力、学校との融合というところですけれども、大田区の特徴的な不登校対策等もやっていますが、この中では、例えば児童の自己肯定感は上昇傾向ということで、実際は小学校6年生の80.3％が「自分がよいところがある」と言っている一方で、残りの2割は著しく低いと私は感じています。その結果として、87校ありますので様々ですけれども、非常に荒れてしまっている学校があります。その原因となるところが非常に残念なところですけれども、発達障害と思われるお子さん等がクラスに複数人いらっしゃる。その中で、担任の先生や学校側が一生懸命やっても、圧倒的にマンパワーが足りないという、こういった深刻な現実があります。

それと同時に、ちょっとさかのぼりますと、待機児童はゼロなのですけれども保育士が十分に集まらない。ある園では4月から7月まで外遊びに一度も出せない。基準は満たしているけれども、この人数では外遊びをさせさせられない。こんな現状もあります。大変厳しいことを申し上げているのですけれども、これからどう課題を解決するか、取り組んでいくかということであえて申し上げています。どうしてもこういう形で数字になると、80％がよかったらそれが高いと思えてしまい

ますけれども、現場ではそのようなことが起こっています。

先ほどの学校のことも、学校の先生方だけではなかなか対応できない。家庭の問題というのも非常に大きくありますので、そういうところこそ本当に中島委員が言ってくださった地域の応援というか、本当にこちら側もお願いをするということで、協力していく。そういう形で本当に大田区の地域力が発揮できたらいいかなと感想として思っています。

◎石渡部会長

はい、ありがとうございます。庄嶋委員どうぞ。

◎庄嶋委員

大田区の強みとか、そういった部分についての話が今の時点のテーマかなと思うので、強みみたいな話をさせていただこうと思うのですけど。

先ほど大井委員がおっしゃった町工場や商店街が多い等、そういった産業の魅力というのがあって、そういったことが先ほど言われた大田の未来づくりという独自評価にもつながって、地域資源を活かした学びをしていこうというそんな展開にもなっていくのだと思うのですけれども。

やっぱり大田区の魅力とは、先ほどSDGs未来都市になったというお話があったのですけれども、例えば自然という要素を見ても、海もありますし、多摩川のような大きな川もありますし。あと国分寺崖線でつながってきていて、それに形成されている台地部、また南北崖線もあるのですけれども、そういう非常に多様な地形があって、そういった自然の魅力というのが非常にあり、それらもいろいろな学びの材料になったり、体験の材料になったりする面がすごくあるなと、私も3人の子育てをしていましたので、こどもを育てていくという意味ではあります。

例えば多摩川に大師橋がかかっていますけれど、その下に大師橋干潟があり、そこにカニ類を始めとして多様な生き物がいて、また鳥も当然、えさになるものがあればたくさん寄ってくる。そこで活動されている「多摩川とびはぜ倶楽部」という団体の皆さんが、またその地域の特徴になるような魅力を活動の素材として発掘をして、育て上げて、それを提供していく。先ほど地域力の話があったと思うのですけど、結局そこに資源となる自然なり、あるいは産業なり、神社の祭りとかも多いですから、そういう文化的・社会的な資源に磨きをかける、そこに携わる地域力が同時にあることで、それらがこどもたちの体験であったり学びであったり、そういったことに非常につながっているなというところを私自身も子育てをする中で感じているところであります。

そういう中で先ほどコミュニティスクールの話も出まして、どっちかというとこのコミュニティスクールの話はこれから本格化していく部分なので、2040年度に向けていろいろな解決策として期待される部分ということなので、まだこの後の話になるのかなと思うのですけれども。それがやっぱり各学校・地域の魅力というところに着目をしながら、またその地域の人材をコミュニティスクールが束ねながらやっていくっていうことで、いろいろな可能性があるのかなと思っています。

まだ先ほどの事務局から説明に出ていない話なので、あとで話そうかと思ったのですけど、そういう自然とか社会経済、まさにSDGsが触れている3つの分野の魅力が大田区にはある。一方で、今回の基本構想策定にあたって、区民アンケートがWebで実施されており、大人、小・中学生という形で分けられているのですけれども、どちらでも上位に出てくる、小・中学生は1位で大人では2

位に出てくるのが、交通の利便がいいという話です。これはやっぱり大田区の、みんながそういったアンケートで答えるぐらいですから、非常に大きな魅力なのだろうと思うのですけど。要は交通の便のいい都会でありながら、自然の魅力やコミュニティが、一見すると人のつながりが希薄だと思われがちな、私も九州の福岡出身なので、大田区に出てきて、こんなにも祭りや地域の活動があるのだなと思っていて。子育て世代の皆さんの話を聞くと、やっぱりよそから移ってきた方々はそういうところに魅力を感じているという部分もあるので。そういう今持っているものをさらに磨きをかけて伸ばしていくのは大事かなというお話をさせていただきました。

◎石渡部会長

ありがとうございました。改めて大田区の魅力をいろいろ再認識いたしました。

◎押見委員

区議会から参りました押見でございます、よろしくお願いします。

先ほどから、子育て世帯の流出の問題が話されていて。今日本全体で少子化が叫ばれております。昨年生まれたこどもの数が80万人を切っていると。大前提として少子化で得をするのは誰なのか。こどもたちはそんなに得をしないですよね。例えばこどもの数が増えて小学校が1クラスから2クラスになって、友だちができる可能性が多くなる。そういったようなところがメリットかもしれないけど。私昭和49年生まれで、団塊ジュニアの世代で200数十万人います。ずっと競争の社会だったし、落ちぶれた人たちも相当多くて、同窓会なんかとても開けない状況です。で、こどもは、実はそんなに少子化対策をやってもメリットがない。少子化対策をやってメリットがあるのは、実は、大人からこれから高齢者を迎えている、現在の高齢者。例えば60歳～70歳の人は、人生100年時代なので20年後30年後もまだご健在なのですよね。今、生まれたこどもたちもしくは小学生の子たちが20歳や30歳になる頃、一番元気に働いてくれる頃、支えてもらうのが実は私たちの世代とか私たちの上の世代。実はこういったようなこども政策をしっかりやるということは、本当は一番の高齢者政策、高齢者施策になると思われますし、こどもの数を増やすことや優秀な若者を増やすことによってしっかり納税をしていただけるような社会をつくっていくことが一番の高齢政策だと思っております。

その中で、大田区の子育て世帯流出というのは、昨年大田区議会で第1回定例会から第3回定例会ぐらいまでもうすごい勢いで各党が質問をしていて、本当に議会マターで、こういったような子育て世帯の流出を防がなきゃいけない、子育て世帯に選ばれる大田区へ、こういったような提言をさせていただきました。結果的に松原前区長にはこれに反応していただいて、大田区でも今年度予算で子ども教育費が相当増えたような状況になりまして、新たに就任された鈴木晶雅区長に関しても、やはり同じように子育て世帯に選ばれる大田区へ向けて、といったようなテーマを掲げて選挙で当選をさせていただいた。

ある幼稚園では1年間で25人転校したとか、現実的にはやはりすごい状況でございまして。校区ごとの数字を私も今回初めて見たのですけれども、大田区は転出者が多いですし転入者も少ない。もうちょっとで1,000人にいってしまう状況の中で、やはりこの部分をしっかり解決をしていかなければいけない。私たちも子育て世代に選ばれる大田区へ向けてやっていかなきゃいけない。

一方で、やっぱり住宅が高いから安い方に引っ越しちゃうよねというような理由を実は持ち続けていたのですけれど、今回出てきた数字によって、お隣の世田谷区なんてもっと住宅が高いのに、大田区の方が悪い数字が出てしまっているということなので、その辺をしっかり分析しながら解決していって、めざすべき2040年ぐらいのときの数字へ出していかなきゃいけない。

個人的に思うのが、大田区はファミリータイプのマンションがほぼ新規でできません。戸建てはまだちょこちょこできるのですけど、もう新規のファミリータイプのマンションはほぼ皆無の状況になっていますので、こういったことも原因の一つなのではないかと思いますので、こどもの部署、教育の部署だけではなく、まちづくりの部署等も連携しながら、こういったようなテーマを解決していかなければいけないし、やはり2040年頃にこどもが大田区で増えて、納税額も増えて、まちも活性化していって、それでお年寄りも元気になっていく。こういったような大田区づくりが、私は理想かなと、今後の大田区まで語ってしまいましたけれども、感じる次第でございます。よろしくお願いします。

◎石渡部会長

ありがとうございます。少子化対策をかっちりやることは高齢世代にとっても、ということでしたけど、データについては何か情報がありますでしょうか。

◎齋藤部長

事務局齋藤でございます。先ほどの転出アンケートについては、課長から申し上げたとおり、もう少しデータを集めてお示しをしたいと思いますが、現在住んでいる方々が住み続けたいと思っているのか、区外に移りたいと思っているかというデータがございまして、令和5年3月に行った区民アンケートで、住み続けたい方が82％いまして、区外に移りたい方が7.1％いるのですね。

区外に移りたいという方の理由ですが、子育て世代だけではないのですが、一番多いのがやはり住宅価格で、これが20.6％です。次に理由として多いのは公園を含む住環境、それからまちのブランドイメージということになっておりまして、その他に行政による子育て支援の充実度が入っていますけれども、アンケートの対象が子育て世代だけではないのでこういうデータになっており、おおむね傾向としては変わらないのかなと。

割と福祉や子育て施策だけではなくその他の要因というのも結構ありますので、子育て世帯に特に定着していただくためには、複合的要因を分析した上で対策を打つべきなのかなと感じた次第でございます。

◎石渡部会長

ご説明ありがとうございました。今のご説明との関連で何かもう少し確認したいこと等がおありの委員の方いらっしゃいますか。

◎押見委員

今のアンケートを見るとそれほど悪いイメージではないのですけど、また子育て世帯に戻っちゃいますけど、さっきも出てきたように待機児童ゼロを達成しているし、学校もばんばん建て替えて

いるし。

例えば私はよく議会で言うのですけど、赤ちゃんを産める分娩施設も、大田区は少なかったのですけど、分娩施設の誘致で5,000万円ぐらい補助金を出して、2ヶ所ぐらい新たにできてきているのですね。実はこれに補助金を出しているのは23区で大田区だけなのです。それなのに、何で子育て世帯に選ばれないのか考えると、私はそのプロモーションの部分、子育て世帯にわかってもらえていない。子育て世帯がおおた区報を読むかといったら、高齢者と比べたら読む率が低いし。今言ったように例えば赤ちゃんを産む分娩施設に補助金が出ていることは、多分、そこで産んでいるお母さんたちも全然知らないと思うのですけど。

こういったような世代の理解を得るようにしていくと、もうちょっとイメージがよくなってくるのかなと思うところでございます。

◎石渡部会長

ご提案ありがとうございました。流出しているような世代に、大田区のメリットをどう発信していくかというあたりも重要な課題だと思いますが。

それでは、この子育て世帯の流出というあたりを中心にいろいろなご意見をいただきましたけれども、大田区の強みや課題としてこのことを言っておきたいという方。

◎庄嶋委員

ちょっとこどもの話が多かったですが、子ども・福祉部会なので高齢者について言うと、今回データブックで、「えー」と思ったのが、データブック15ページ「高齢者」のところで、高齢者における65歳以上人口に占める要支援、要介護の割合は他自治体と比べて低い。これ、非常に喜ばしい話なのかなと思ったのですけど。ただ、何でそうなのかっていう分析までは書いてないので、これもちょっと分析があるならお聞きしたいところなのですけれども。

周りを見渡したときに一つ考えられるのは、健康づくりの取組と言いますかね。要するに、健康というものをつくっていくには栄養、運動、社会参加だと言われたりしますけれども、特にその中の、もちろん栄養も大事ですけど、運動とか社会参加といったときに、お1人で何らかの運動をストイックに取り組むということもあるのでしょうけど、高齢になればなるほど、お仲間がいて、その仲間との活動の中で健康づくりを維持していくということがとても大事かなと思うんですけど。そういう意味で大田区では2本のポールを使ったポールウォークが盛んに行われていまして。ポールウォークを1人でやるのではなくて、お仲間をつくってあとは指導者を育成したりして、コミュニティをつくって、クラブ活動みたいな感じで、区内あちこちで行われていたりするということで、町会レベルで指導者になった方が、仲間を連れてやられたりするというようなことがあって。そういう自主的な健康づくりの取組が盛んなことも影響しているのだろうかなということを、私の肌感覚としては推測するところではあったりします。

その他場所さえあれば、高齢者の皆さんが集って、リーダーの方がいらっしゃれば取組をされているような事例もありまして。大森西の方でプラムハイツ大森西という場所があるのですけど、そこの集会室を使った活動をされている皆さんの様子を見ていますと、高齢者の方々がいろいろな、それこそ今言ったポールウォークをやったり、それ以外の普通のウォーキングをやったり、健康

マージャンをやられたりとか太極拳をやられたり。そういうプログラムで集まられると同時に子ども食堂という形で、そこで知り合った高齢者の皆さんが料理をつくって、お子さんたちに食べてもらう活動をやって。あとは自分たち自身が楽しむということで、ちょい呑みの活動をされて、お酒を飲みながら交流されるみたいなこともされている。何かそういうような自主的な交流の取組が、もちろん町会レベルで行われているものもあれば、いわゆるシニアクラブ、老人クラブで行われているものもあれば、ちょっと違った形で行われているものもある。地域力、コミュニティの力というのが重要かなというところで。

ただこれも一方で、地域活動の担い手の不足とか高齢化というのも、同時に別のデータに出ているわけですので、そういう意味で、今後それを維持していく、持続可能にするにはまた課題があるとは思うのですが。自主的な取組がいろいろと盛んなことも、こういうところにつながっているのだとすれば、それを伸ばしていくというのは方向性としてはあるのかなと思います。

◎中島委員

ただいま庄嶋委員がおっしゃっているとおり、私それを維持しておりますが、もう90半ばになりましたけど、とにかく大勢の人と接することが長生きの秘訣だと思っておりますよ。もう面倒くさいこと何もない。何もその長生きするための努力はしたことは一度もありません。

ただ町会に入って50年近くになりますけれども、大勢の人と話し合いを持つこと、大勢の人といつも会って、いいことでも悪いことでもみんな話し合いをすると、何となくほっとするのです、話をすると。やっぱり高齢者になりますと、高齢者世帯は夫婦が残っている場合もありますが、今もう完全に1人という高齢者が多くなりましたので、やはり若い人とあまり話が合わないのですよ。昔の話は昔の人じゃなければわからない。こういう話をする人が、私も90半ばで、どんどん少なくなってきておりましてね。昔話する人が少なくなる、だから懐かしく思っておりますよ。

今一番大事なのはやっぱり少子化の問題をどうするかということなのだろうと思います。健康高齢者を育てるというのは今、私が申し上げましたとおり、やはりそれぞれの高齢者は意識を高めていくことが大事。誰からか健康をもらうのではなくて、自分で健康を保つという自己努力、これがなければ。精神的な問題になりますが、そういう意識をきちっと持つ大切さが一つあります。

それから環境です。環境はもう争えませんね。ですから、そういう環境づくりをどうするかというのはみんなで考えなきゃいけない。私はたまたま今社協で出ておりますけれども、地域の町会長をやっておりまして町を預かっておりますので、やはり地域によってね。大田区は非常に三様でも四様でもあると、私は思っているのです。松原前区長もおっしゃっていました。高台にある田園調布地区みたいに住宅地が多いところもあれば、大森地区みたいに商業のまちがあったり、蒲田地区みたいにものづくりのまちがあったり、羽田地区みたいに漁業のまちであったり。

だけど目的は一つですよね、まちづくりです。方法は違ってもそれぞれの分野で努力すれば、総合的にいいまちができるのではないかという考えを持っています。上から押し付けられて「こうやりなさい」「ああやりなさい」というのではなく、自分たちのまちは自分たちの手でつくる、まさにそういう意識を持つことが一番大事です。そうすると自ずと張り合いが持てる。

それと、今住んでいるところで一生を終わろうと私は思っております。ここで子育てもしましたし、友だちもいっぱいおりますし、よそに新しく行ってどうの、とは考えておりません。昔は静かなとこ

ろに別荘を買っておりましたので、そちらに移転しようかと思ったのですが、嫌ですね、不便で。ここで暮らしていたら「おい」と言ったら「はい」と返事をする人がいっぱいいること、こんな便利なことはないですよね。ですから別荘にはいきません。

そういうふうに高齢者になってわかることはすごくいっぱいある。若いときは考えつかなかったことです。だけれども、高齢者と同じ考えを若い人は持っていられても、これはまた困る。若い人は若い人でやることがありますから。変わっていてもいいと思うのですよ。ただ総合的に暮らしやすい状況をみんながつくっていくということが、一番伝えたい。これに一番大事なのは、みんなで話し合う、老いも若きも老若男女揃って、困りごとでもいいことでもなんでもいいから、話し合いの場をたくさん持って、その地域を盛り上げていくことが大事ではないかと思っております。以上です。

◎石渡部会長

中島委員、ありがとうございます。ご自身の体験も含めてとても説得力のあるお話でしたし、やはり大田区にそれだけ健康でいろいろな可能性を持っている高齢者がいらっしゃる。この強みをどういうふうに、これから若い人が暮らしやすい、こどもへもいろいろ貢献できるような地域づくりをしていけるか、というところは私たちの専門部会の大きな課題であると改めて認識しました。

健康な高齢者が多いという話がありましたが、医療の立場で西脇委員、そのあたりについて。

◎西脇委員

先ほど、要支援・要介護の話がありましたけれども、データブックの18ページに健康寿命のグラフがございます。それからデータブックの19ページ右上に「1人当たりの医療費の推移」のグラフもございます。これで見ると、健康寿命はほぼ、東京都の平均をちょっと落ちるくらいの感じです。

それから医療費は、これは国民健康保険加入者に限られますので、必ずしも区の全体を代表しているわけではないのですけれども、少し高くなっているということがご覧いただけていると思います。

検診受診率の低さは、これは日本全体の問題であって、大田区だけの問題ではないのですが、大田区もご多分に漏れず決して高くないという状況があります。健康づくりに関してはまだまだやらなければいけないことが、大田区に限らないのですけれども、たくさんあると思っております。

そういう意味では、先ほど中島委員がおっしゃっておられますけど、大田区は全国に名の知れた高級住宅街から下町的なところまでかなりダイバーシティのある、そこがまた魅力だと思っています。ですので、なかなか、均一的な健康づくりは難しいのではないかと思います。まさに中島委員がおっしゃられたように、地域ごとの強みを生かして、例えば川の近くでウォーキングするのもあるでしょうし、海沿いのサイクリングがしやすいようなところはそういうところを利用すればいいですし、坂の多い地域もあります。逆手にとってそれを健康づくりに生かすという。先ほどからいろいろな委員がおっしゃっているように、我がことのように地域に住んでいる方が考えていただいて、地域独自の健康づくりを発達させる。これは理想論かもしれませんが、それをやっていくのがいいのかなということで、その根拠となるようなデータも出していかなければいけないということで、うちの大学も少し協力させているのですけれども。

健康政策部も今そういうようなことで地域に根付くような健康づくりに取り組まれていると思います。こういうことを引き続きやっていくことが必要なのかなと思っている次第です。なかなか、どこの自治体も苦労していて難しいのですけれども、少し実際よりも小さい地域、括りにして、例えば熊本市のように、小学校区で「健康づくりはまちづくり」という号令の下にやっている地区もありますので。小学校区が正解かはわかりません、自治体によって違うと思いますので、それはいろいろであっていいと思うのですけれども、少し小さい単位で健康づくりをやっていくのはすごくいい視点で、これからも大事なのかなと思います。そういう意味では、世帯を超えた協力が非常に重要だと思っていて、少子化の問題、これは区民全体の問題でこれは放っておいていいとは思っていないのですけれども、元気な高齢者が増えていることは間違いありませんので。

そういった方々がこどもを育てていく社会にぜひ力を貸していただいて、もちろん仕事だけではなくボランティアみたいな活動もあると思いますけれども、そういう社会がきっといい社会なのだろうなと思いながら。理想論かもしれませんけれども、そういうところに近づけたら嬉しいなと思います。

◎石渡部会長

西脇委員からとても大事なご指摘をいただきましたけれど、やはり大田区は地域ごとの特性があって、その特性を健康づくりやこれからのこどもの支援みたいなところにどう生かしていくか。「地域特性をどう生かすか」が、一つ大きなポイントですね。ありがとうございます。

◎押見委員

今、西脇委員から事務局資料17ページの医療費の推移についておっしゃられて、特別区平均よりずっと15％以上高い状態が続いていると。健康、長寿、運動、スポーツという中で、左下の「スポーツ実施率」を見てみますと横ばいで、やはり東京都の平均を下回っている。それより古いデータがどうなのかはわからないのですけれども、大田区はスポーツをして健康になろうという「スポーツ健康都市宣言」、もう10年たちますかね、行わせていただいている中で、結果的に数字がよくなってきていないというのはこのデータから見て取れますので、やはりしっかりスポーツや運動をしていただいて、健康に、元気な高齢者になっていただく。こういったことがやはり必要になってくるのかなと思います。

特定検診の受診率、65歳健康寿命とか、やはり東京都の平均を若干下回っているようなところです。スポーツ健康都市はやはり非常に大きな宣言だと思いますので、こういったような振り返りという部分では、これからどう生かしていくかという部分だと思います。

◎岡元委員

高齢者のところで言うと、大田区として誰も置き去りにしないという考え方からすると、介護のことがデータブックの15ページにあります。介護施設に入所したいというご相談を受けることが大変多いので、イメージ的にそういう数だと思いましたら、自宅での介護を望む方が43.4％ということで、日頃の肌感覚とは違うなという印象だったのですけれども、こうなりますとなお一層、地域包括の充実というところが大きくなってくるのかなと思います。

その中でも特に、在宅希望でありながら家族への負担も避けたいという思いからだと思うのですけれども、一番上の「自宅で、主に介護サービス等を利用」した形での在宅ということなので、ここも介護人材をどう確保していくかという課題は、区としても、介護事業者の皆さんが頑張ってくださっていますけれども、しっかり力を入れなければならないことかなと思います。

◎石渡部会長

岡元委員、ありがとうございました。

議題（2）重要となる施策やその先の将来像について

◎石渡部会長

この大田区の強みをどう生かして課題の解決にという将来像のイメージをかなり描けてきた感じがするのですが。次に、そのあたりの現状を踏まえたところで、議題の2番目として重要となる施策、そしてその先の将来像というテーマを用意していただいていますので、まずこのあたりについての説明を、事務局にお願いしてよろしいでしょうか。

◎野村課長

それでは事務局より議題2に関する資料について説明させていただきます。

資料の2番をご覧ください。本議題では、議題1で出た強みを伸ばし、また課題を解決していくために重要となる施策は何か、そしてその施策を進めることで、どんな将来の姿が実現できるのかという点についてご検討いただきますが、先日の第1回審議会で、複数の委員の方から、今後の方向性を検討するにあたっては、現構想の評価や振り返りも重要というご意見がございました。ご検討いただくにあたりまして、資料のこちらの2ページ目以降で、まず事務局から、現構想の振り返りに関する説明をさせていただきます。駆け足になりますがご了承ください。

資料3ページをご覧ください。こちらは先日の審議会でも説明させていただいた現構想の主な部分の体系図となっておりまして、次の4ページ目では参考として子ども・福祉分野に関連の深い目標を色分けしております。

続いて資料6ページでは現構想の計画等を示しておりますが、基本構想そのものには明確な数値目標等が設定されていないため、構想の個別目標に紐づく形で策定されています基本計画との評価を通じて、現構想の振り返りを行っております。資料にも記載されておりますとおり、現構想下では、この左側にあります「おおた未来プラン10年」という基本計画が存在した期間と、右側半分の、基本計画ではなくコロナ対応の緊急プログラム等によって区政を運営してきた期間の2つに分けられますので、それぞれの期間ごとに振り返りを行っております。

まず、前半の基本計画が存在した期間についてですが、「おおた未来プラン10年」の基本計画期間が満了した翌年に、新たな基本計画を策定するための懇談会を実施し、その懇談会の中で達成度評価を行っております。この達成度評価は厳密には基本構想の評価ではなく、資料8ページの赤枠のように、あくまで基本計画の各施策に対する評価なのですが、資料の9～11ページをご覧いただくとわかるように、各施策は構想の基本目標及び個別目標にしっかりとぶら下がる形

でそれぞれ位置づけられておりますので、この施策の評価をもって基本構想の振り返りの参考とすることができます。

また資料12～18ページにかけまして、この基本計画の際にはモノサシ指標という形で施策ごとに目標値が設定されておりました。モノサシ指標の達成度に加え、各施策における取組の主な成果や課題などを考慮し施策ごとに総合評価を行ったものが、19ページ以降の資料となっております。

総合評価では、資料の左上に記載がございますが、めざす姿をおおむね達成したものをA、施策のめざす姿に相当程度達成があったものをB、施策のめざす姿に大きな進展がないものをCとして評価を行い、資料の上段の右側に記載がありますとおり、施策ごとにA、B、Cに振り分けております。またそれらを個別目標や基本目標に沿った形で整理しておりますので、Aの割合をもって、各基本目標、個別目標の振り返りに一定程度活用することが可能です。

本専門部会のこどもや福祉に特に関連が強い基本目標は、基本目標1の、こちらに今表示されております「生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち」ですが、そこにぶら下がる個別目標1-1ではAの割合が75％、個別目標1-2ではAの割合が33.3％、個別目標1-3ではAの割合が100％という結果になっております。こちらは基本目標2、基本目標3に関しても同様に、20ページ、21ページで結果を記載しております。

なお、今説明させていただきました12ページから21ページまでに記載のある振り返りの内容は、いずれも令和元年11月の基本構想策定懇談会で報告のあった、達成度評価報告の資料の抜粋となっております。達成度評価報告書は、本日の参考資料としても添付しており、後日ホームページにもアップしますが、懇談会後に100ページ強の冊子として取りまとめ、公表済みの資料でありますので、こちらについて本日は詳細な説明は省略させていただきます。

こちらは基本計画が存在した期間の振り返りでして、続いて基本計画が存在しない後半の期間の振り返りについて説明させていただきます。

資料23ページとなります。こちら後半の期間につきましては、当初は新たな基本計画が策定されるまでのつなぎの計画として、「おおた重点プログラム」を策定いたしましたが、その後新型コロナウイルス感染症の流行により新たな基本計画の策定が延期となり、コロナ等への対応を主な内容とした、緊急プログラムである「新おおた重点プログラム」を策定いたしました。「新おおた重点プログラム」の全体像については、資料24ページに記載しております。こちらにつきましても、構想の基本目標、個別目標にぶら下がる形で、各施策が位置づけられております。

資料25ページは、特にそのうちの子ども・福祉部会に関連のある個別目標を色分けしております。こちらでは個別目標の1-1にぶら下がるものが、主にこどもや教育に関する施策、それから個別目標1-2にぶら下がる施策が、主に健康スポーツ福祉に関するもの。そして個別目標1-3が高齢者に関するものとなっております。

資料26～33ページにかけましては、先ほど色分けした施策の柱を記載した上で、さらにその施策のうち、本部会と関連のある事業を色書きしております。事業のあとには括弧書きで令和5年度の主な取組内容を例示列挙しておりますので、直近の主な大田区の施策を確認される際にご活用ください。

こちら33ページまでで「新おおた重点プログラム」に掲載のある取組について紹介させていた

だきましたが、「新おおた重点プログラム」はコロナ等を踏まえた緊急計画として策定したため、目標値の設定等を行っておりません。そのため、先ほどの「おおた未来プラン10年」前半のように、進捗に応じたA、B、Cという評価が難しいのですが、この点の振り返りにつきましては、先日の第1回基本構想審議会でも紹介させていただきました新たな基本構想の策定に向けたアンケート、こちらの結果を活用した形で行っております。

詳細については35ページをご覧ください。まず、こちらのアンケートの概要についてですが、基本構想の策定に向けて、広く区民の皆様のご意見をうかがうという目的のもと、まずこちらから提示した30個のまちの姿について、今の大田区が「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」の5択で聞いております。その同じ30個のまちの姿について、未来、つまりは基本構想でめざす将来にどんなまちになってほしいか聞き、最後に自由記述で意見をうかがうという形になっております。

こちらにつきましては7月14日から開始しておりますが、特に7月14日から7月20日にかけましては、区立の小・中学校を通じて、小学5・6年生の全児童及び中学1～3年生の全生徒にアンケートをお願いし、またそれと併せまして、区立の全小・中学生の保護者にもアンケートをお願いしたため、7月23日までに計15,658件の回答が集まっております。アンケート自体は9月11日まで引き続き実施しますが、現時点で15,000強という、分析には十分な数が集まっていることから、次のページ以降で、現時点のアンケート結果を活用した振り返り手法について説明させていただきます。

資料の36、37ページをご覧ください。こちらはアンケートのうち、現在の大田区のまちの姿について「あてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計割合が多かったまちの姿を2枚のスライドにわたって、多い順に並べたものとなっております。この結果からは「交通の利便性がよいまち」と感じている人は81.4%と最も多く、一方で「犯罪や交通事故が少ないまち」は47.0%と最も少ない結果となっております。

この結果をどのように活用するかと言いますと、資料38ページに記載のありますとおり、アンケートの設計段階において、この30個のまちの姿を設定する際に、それぞれが「新おおた重点プログラム」のどの施策に紐づくかを整理し、かつ、「新おおた重点プログラム」の施策の主な要素を網羅的に抑えたまちの姿になるよう、そういった形で設計いたしております。先ほどのアンケートの各まちの姿は、資料39ページに記載のある「新おおた重点プログラム」の施策体系に全て紐づけることができ、各施策は、それぞれ構想の基本目標・個別目標に対応していることから、施策を介して構想と紐づけることが可能となっております。

この整理に従って、各まちの姿を基本目標と個別目標に分類したものが、資料の40、41、42ページとなっております。この分類に各アンケート結果を落とし込んだものが43～45ページとなっております。精緻に目標値等分析した振り返りではございませんが、区民が現在の大田区をどのように捉えているかということは、現構想を振り返る上での一定の判断材料になるものと考えております。

また、アンケートのまちの姿は、単純に平均値を取ればいいというものではないことは重々承知しておりますが、短時間で目標ごとのアンケート結果の傾向を把握できるよう、一番右側には、個別目標ごとにアンケートの「あてはまる」「ややあてはまる」の合計の平均値も掲載しております。

以上、基本計画の存在した期間と存在しなかった期間に分けて振り返りを行いましたが、これらの2つを一元化したものを、資料の48ページ以降で個別目標ごとにまとめております。

48ページは個別目標1-1に関する振り返りです。個別目標は全部で9つありますので、同様のスライドが9つあります。資料の上段では、「おおた未来プラン10年」達成度評価報告のうち、当該個別目標に関する施策のA評価の割合を掲載しており、資料下段では先ほど説明したアンケートの結果を示しております。

こどもや教育と関連の深い個別目標1-1「未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします」につきましては、上段のAが75％で、区民のアンケート結果の平均は70.7％となっております。

その他に本部会と特に関連の強い個別目標について見てみますと、まず資料49ページに記載のある健康、スポーツ、福祉等と関連の深い個別目標1-2ですが、上段の円の割合は33％、下段の区民アンケートの平均は63.3％となっております。ただこの個別目標は、対応するアンケート項目が大きいため、平均という一括りで見るのではなく、個別のアンケート結果を見ていく必要があるかと思われます。

次に、資料50ページに記載のある高齢者に関する個別目標1-3ですが、上段のAの割合は100％、下段のアンケートは69％となっております。その他の個別目標についても同様の形で整理しておりまして、これらを全て一元化したものが57ページの資料となっております。

暫定のアンケート結果を当てはめて解釈というのはやや乱暴な手法かもしれませんが、構想前半の「おおた未来プラン10年」の評価手法が、区が設定した目標値を判断材料の一つとして、区の判断により総合判断判定を行うという行政視点からの振り返りであったのに対し、後半のアンケートを活用した振り返りは、区民がどのように感じているかという区民視点からの振り返りであるため、トータルで見た場合にバランスがよいといった見方もできるかと思います。また、これらに加え、15年間の変化についてまとめたデータブックも、現構想の振り返りの一助になるかと思いますので適宜ご活用ください。

なお、アンケート結果の速報につきましては、資料58ページ以降に掲載しております。詳細につきましては必要に応じてご確認いただきたいのですが、アンケートについて1点注意事項がございますので、資料59ページで説明させていただきます。

アンケート概要等は先ほど説明させていただいたとおりですが、こちら下段の回答数15,658件のうち、4,016件を占めます高校生以上の大人の意見、このうちの3,418件は、区立小・中学校を通じて回答をお願いした保護者の回答となっております。残りのわずか598件が、その他ホームページ等からご回答いただいた、一般の大人の方の回答となっております。この4,000件のうち、大半は保護者の回答という結果になっております。

このような内訳の差が生じている原因としましては、一つは7月14日から20日にかけて、区立小・中学校を通じて保護者の皆様に回答をお願いしたため、保護者の回答率が高かったこと。もう一つは、データブックの納品が7月25日でございましたので、出張所、各種区立施設へのアンケートチラシの配布はデータブックとセットで行うため、本集計の7月23日時点では一般区民に積極的な呼びかけができていない、そういった事情等がございます。

アンケートは9月11日までございますので、今後様々な区立施設におけるアンケート協力のお

願いや、区のイベントや来客の多い商業施設に出向いてのアンケートへの呼びかけなどを実施してまいりますので、最終的には保護者以外の方のご意見も多くなる見込みですが、現時点の速報値としては結果が偏っており、そういう意味では先ほどの振り返りもあくまで暫定の結果であることをご承知おきください。

資料60ページでは、上段で大人の回答について、今の大田区のまちの姿のうち「あてはまる」「ややああてはまる」の合計割合が多かったトップスリーの姿を左側で、将来のまちの姿で回答が多かったトップスリーを資料上段右側で大人の意見として示しております。下段では同様にこどもの回答結果を示しております。選択肢回答の詳細は61ページ以降に記載しております。こちらの自由記述につきましては、専門部会の第2回には一定の形でお示しさせていただく予定です。

本日は、第1回の審議会でのご意見を踏まえ、現構想の振り返りについて説明させていただきましたが、意見交換では、振り返りそのものの妥当性ではなく、それらをあくまで一参考情報とした上で、今後大田区にとってどんな施策が重要であり、そしてその施策を進めることで、どんな将来の姿が実現できるのかという点についてご意見をいただきたいと思います。

事務局が作成した振り返り資料に記載のある既存の計画の枠組みを意識し過ぎてしまいますと、既存の枠組みの中での議論になってしまうというリスクもあるかと思います。ですので、10年、20年先の将来像の検討を進めていくには、既存の計画の枠組みにとらわれることなく、大田区にとってどんな将来像をめざすべきか、どんな将来像であればみんなが希望を抱けるか、そういった観点から自由にご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

◎石渡部会長

振り返りをしっかりやってくださっていますし、今後アンケート結果がもっと増えるかと思うのですけれども、こどもたちの意見もしっかり聞いてくださっているというあたりは、とても大事なことかなと改めて思いました。

これからの大田区で重要となる施策等についてですが、今まで前半の議論のところでもかなりいろいろとご意見をいただけているかなと思います。やはり大田区の持っている要素とか、それをどう今後に生かして、なお且つ、まだ足りないところは、委員の皆さんから意見が出てきていたかなと思うのですけれども。まだ、このことを話していなかったという委員の方もいらっしゃるかと思うので、重要となる施策というあたりからまずお話をいただくと、多分、将来像につながっていくかなと思いますが。

◎庄嶋委員

重要な施策についても述べたいのですけれど、その前に先ほどの区民アンケートの結果というか途中経過というか、夏休み前に取ったことによって、現役の小・中学生、小学校5年生から中学校3年生までとその保護者のデータがちょうどここに集まっているという、非常に興味深いなと思って見ていました。

私が着目したのは、1問目で今の大田区が30のまちの姿のどれに当てはまっているかということを聞いて、2番目が2040年頃を考えたときに、大田区がどうなっていてほしいか選択するとい

うものなのですけど。大人と小・中学生でどんなまちになっていてほしいかというのが、似通っているところなのですけど違うなと思っていて。

大人は「子どもの安全が守られている」「子育てしやすい」「教育が充実している」と、子育て中の保護者なので、そこら辺を重視した結果が上がってくるのですけど。こどもは「犯罪や交通事故が少ない」で、大人の「子どもの安全が守られている」と一緒なのですけれど、「地震や風水害などの災害に強いまち」といったようなことが出てきますので、もうちょっとさらにその4位以降とかを見ていくと、大人の方はそれこそ犯罪や交通事故の話や、また地震や風水害なども出てくのですけど。要はその子育てに関することと、あとはやっぱり安全っていうのですかね。

「マズローの欲求5段階説」で、生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求とありますけど。割とこのより低次というか、より生命に結びつくような安全の要求というところが非常にやっぱりこどものことを考えて高いのかな、というものがあるのに対して、小・中学生の方は4位以降を見ていくと、例えば障がい者にやさしいというのが5番目に出てきたり、7番目に高齢者にやさしいが出てきたり、8番目に一人一人の個性が尊重されるみたいに出てきて、何とか自分にとってよいものを求めるのだったらみんなにとってもよいものを考えましょう、というような、何かこどもの方が何かいろいろと日頃の教育を受けている関係もあるのでしょうけど、広いものの見方をしているのだなというのが、ちょっと非常に興味深く感じたところです。

そこで出てきた障害者の話とか、そういったところにも関連するのですけれども、先ほど高齢者の話はして障害の話はしていなかったかなと思っているのですが、私の知り合いのケアマネージャーさんと、このことについて意見交換をしたときにいただいたのですけど、今回のデータブックを見ていて、例えば高齢単身世帯が増加しているということがデータブック15ページの右上に出てきたり、17ページに知的精神障害の手帳所持者数は増加していると出てきたり。ということで、実際福祉現場に行って非常に実感するところだというご意見をいただいたりしています。

人口全体を見ると生産年齢人口はだんだん減っていくということもあって、高齢者あるいは障がい者の就労は、これから大きなテーマになっていくだろうなといったときに、どうしても仕事と言うと、効率性、合理性、生産性等と考えがちなのですけど、それとは違った軸でのその人らしい働き方というようなことを、今後実現していかなきゃいけないだろうということで、東京都ではソーシャルファームの取組をされていたり、自分らしい生き方、多様な働き方ということで、協同労働の考え方なんかも法律ができて広がりつつあります。

そういった多様な働き方ができる環境を、大田区として2040年あたりを考えていくときには、生産年齢人口の減少という大きなテーマに対してということもあるのですけれども、一人一人が自分らしい働き方をして、誰1人取り残さないという形の方向性が必要なのだろうと感じています。施策を具体的にどうするかはまだまだ足りないところがあるのですけれど、方向性としてはあるのかなと思います。

障害ということを考えたときに、ここのところ技術の進展ということに応じて合理的配慮が技術の力でできるようになってきているということがあるのかなと思っていまして。我々も議会で傍聴に来られた皆さんに、我々が話している内容が文字に変換されるUDトークというアプリを使って、それを文字情報として提供することができて、聴覚に障害がある方に我々が議場で話していることを文字でモニターに映せる。加齢で聞こえが悪くなっている方にとっても、その文字を見ること

で理解がしやすくなる。こういったものも、技術の進展によって合理的配慮がなされる部分になってきていて、大田区では羽田イノベーションシティがここのところの動きとしては出てきていますので、羽田イノベーションシティでの先端技術、大田区の従来の町工場のような匠の技とまたちょっと違って新しい技術、大田区のまさにSDGs未来都市が、匠の技と新産業の融合というところを掲げて今回選定されたわけですけど。イノベーションの力なども活用しながら、それを社会課題ということに生かしていくという意味では、障害をお持ちの皆さんの聴覚だけに限らず、様々な障害に対する合理的配慮を生み出していくのに技術を生かしていくということもあると思います。

あと、大井委員が携わられている事業の一つに、介護事業者の皆さんのニーズに合わせて車椅子を町工場の方々が開発したっていう、私も載せてもらったのですけれど、結構体重のある方をすごく軽々と押して運ぶことができる車椅子を、町工場の力で、介護事業者のニーズを聞いて開発されたっていうこととかもありまして。そんなことも方向性としてどんどん推し進めていけたらいいのかなというふうに大田区らしいというところでは思っています。大井委員、何か補足があればよろしくお願いします。

◎大井議員

車椅子について少し補足させていただくと、都心ではやはり水勾配が多くて、老老介護の方が車椅子を押していると片流れしてしまうので、老老介護の人が車椅子を押して外に出られない。

でもそんな人にも外出してほしいということで、片流れしにくい車椅子ということで、町工場が技術を使って介護事業者さんと開発したのですけれども、それが簡単な力で踏切の坂を越えて、段差にも引っ掛からず先に行けますよ、という形にはなるのですが。ものづくりのニーズ、困ったことをものづくり、技術で解決しますというのは、大田の一番得意なところなので、そこは皆さんのニーズと、というところで思っております。

逆に、町工場側のニーズを少しお話させていただくと、「ものづくりのまち大田」と皆さん言ってくださるのですけれども、今若手の職人さんが、どの職場もそうですけれども、若手の働き手がほしいけどなかなかきてくれないという問題を抱えております。令和7年から大田のこどもたちがものづくりを学び始めると、勉強が得意な子もいるかもしれませんが、ものづくりが好きだと思ってくれるこどもたちが小学校のうちからものづくりをめざして育っていってくれると思います。ところが、中学校になると職場体験もあるので、まだ大丈夫なのですが、高校生になると、皆さん工業高校とかに行かないと、なかなか町工場との接点がなくなってしまう。

地域での子育てや職人を育てるということを考えるとき、荒川区では、高卒等で早くに離職してしまった人には学校がサポートできなくてほったらかしになったり、なかなか再就職ができなかったり、学卒者でも新卒採用で失敗してしまった子たちが、満員電車に乗るのも苦手だし働くでもなく働かない選択肢、引きこもりになってしまったりということがあるそうなのですけれども。荒川区も町工場のまちで、そういう若者に向けて若手のハローワークとして、工場見学のツアーとか、働き手としての町工場を紹介しますよ、ということを行政として事業でやっているのですね。大田は、産業振興として、産業がうまくいくというふうになっているのですけれども、子育て・福祉のところで、働き手として、また働きたい人を産業とマッチングさせる仕組み等もできてくると、それは町工場に対しても地域に対してもWin-Winになるのではないかなと思っております。

◎石渡部会長
　どうぞ。

◎押見委員
　大田区の強みは、実は私さっきも言ったのですけれど「スポーツ健康都市宣言」。大田区の宣言は4つくらいしかないのですけれども、そのうちの1つが「スポーツ健康都市宣言」で、さっきの繰り返しになるのですけれども、しっかりとスポーツができる環境をつくって、現在の高齢者が、私たちももう少しで高齢者になっていくのですけれど、そういった人たちの元気高齢者を育成していって、介護や医療にお金がかからない環境をつくっていく。先ほどから意見が出ているように、大田区は運動するにしても本当に地域特性が違うのですけれども、一方で大田区はここ10年ほど総合型地域スポーツクラブの育成に力を入れていて、地域に根付いた地域のスポーツをやっていける総合型地域スポーツクラブをどんどんテコ入れし、地域スポーツを活性化していって、結果的に元気高齢者や元気な現役世代をつくっていく。それにより浮いたお金というのも失礼ですが、そういったようなものをこどもとか教育、若者政策に充てていく。
　例えば、保育園は待機児童ゼロなので足りていますけれども、さきほどの数字にあったように、学童保育も、松原前区長が全学校の中に学童保育入れますよと言ったけれども、やはりまだ達成ができていなくて、このように学童に入れない保留児童が発生してしまっているので。こういったようなところに力を入れる。これも言っていいのかわからないのですけど、大田区の学校はどんどん建て替えてはいるものの、老朽化した学校が多くて雨漏りしている学校も非常に多いのが現状でございますので、こういったようなところに、そういったところで浮いたお金を使っていくとか。
　あと私、基本構想の全体会で、最初の挨拶で言わせていただいたのが、大田区は羽田空港があると、その特徴を生かしていこうと。他の自治体と同じようなコピペの基本構想はつくりたくないと。これだけ観光客も羽田空港に降り立って国際化している中で、今年度から大田区では大森東小学校で英語教育を始めたのですけれど、やはりこれからの国際化に向けて、「大田区は英語教育がすごく進んでいるのだよね」。2040年の頃には「大田区で学んだこどもたちは結構英語話せるのだよね」。羽田空港も大田区として合っていると思うし、そういうようなところにお金を使わせていただく未来像がよいのかなと私は思いました。
　さっきのアンケートに戻りますけれども、こどものアンケート約11,600件、基本構想でこれだけ真剣なアンケート結果を得られたデータはものすごいことですよね。今回の基本構想にどこまでこどもの意見を入れるのかというのはあれですけれども、その他のことでも、このこどものアンケートというのは非常に使えることですし、こういったドンピシャなアンケートをやっていただいた部局には本当に感謝、評価をさせていただきます。
　ただ一方で、一般のアンケートがまだ500件くらいしか集まっていない中で、議論をしていってくれというのは少々乱暴であると非常に感じるところでございます。その辺は性急。子ども部会もどんどんどんとやっていきますけれども、その辺はちょっと、どうなのかなとは思った次第です。しっかりとその辺も踏まえながら2040年くらいまでの道筋というのは、私としては今言ったような感じでございます。

◎石渡部会長

ありがとうございます。アンケートについてはこの次の専門部会のときには、もう少し大人の声も入ったものがいただけるかと思います。今、就労のこととか、併せて教育との連携、こどもの頃にどう働く体験をするか、それから健康・スポーツ、そして教育で、大田区らしい英語教育なんてお話が出ましたが、他の委員の方。

◎西脇委員

西脇でございます。いままで出てきていないことで、いままでの基本構想にも入っていることにはなるのですけれども、今押見委員がおっしゃったように、やはり羽田空港があるということは大田区にとって魅力だなと思います。

一方でそれに伴うリスクも考えていく必要があると考えると、まさに今、新型コロナウイルス感染症が問題になっておりますけれども、日本人の特性として喉元過ぎればリスクを忘れてしまうということを考えると、やはりこういった国際都市においては感染症のリスクは常に考えておかなければいけないのだろうなと。

それから今回のこの異常な暑さもそうですし、雨が降ってほしいなと思うと今度は降り過ぎというくらい降ってくるというような異常気象がさらに悪くなるだろうと予想されています。そう考えると、海もあり、川もある大田区では、今までの構想にも入っておりますが、やはり災害に対するリスク対策というのは継続してやっていかなければいけない、欠かしてはいけない。この部会とは守備範囲が違うのかもしれませんけれども言っておかなければならないことだなというのが1点。

それから、せっかくアカデミアから来ておりますので、今、大学に求められていることとして、リカレント教育ということが盛んに言われています。それこそ人生100年時代になりましたので、60歳でリタイアではなく、60歳の方がもう一回学び直して、社会にそれを還元していく。先ほども申し上げましたけれど、子育て世代を手伝ってほしいとか、社会で活躍していくときに、「リカレント教育」ではちょっと重々しいのかもしれませんけれども、もう一回学んで、また社会に戻ってくるというようなことを推進していかなければいけない。

そういう時代なのかなと思いますので、ぜひ大田区としても、そういうことを進めていただいて、前回の基本構想の3-3-1「質の高い区民サービスを提供する、持続可能な区役所をつくります」。こういうことも大事で、もちろん今の時代、全部役所にやってもらうのではなくて、住民と協働して何でもやっていくという時代だとは思いますが、そうは言っても、区役所にいろいろお願いすることがある中で、区役所の方々もリカレント教育で、再度新しい知識を身につけていただいて、さらにいい区にしていただくことで活躍していただくこともすごく大事かなと思いますので。

構想に入れるかどうかはわかりませんけれども、そういう視点は常に持っているといいのかなと思います。以上です。

◎石渡部会長

ありがとうございます。私も、今の西脇委員の意見に加えてなのですけれど、リカレント教育とも関連するのですけれど、前期高齢者がこれだけ多いのであれば、この方たちが新しく学んだこ

とを活かして働くみたいなことは十分あると思いますし、今、成年後見センターの利用促進というところで、市民後見人の活躍ということが注目されていますけれども、あそこは家庭裁判所がOKしてくれるような後見人を育てる教育をした上で、素晴らしい活躍をしている方もいらっしゃいますので。いろいろな分野で新しいチャレンジみたいなものを、仕事としてできる可能性は多分にあるかなと思います。

先ほど、澁谷議員もおっしゃっていましたけど、社会貢献をしたいという意識を持っている人が8割いる。これをどう形にしていくかというのがとても大事になってくると思いますので、それが仕事という形もありますし、ボランティア、まちをどうつくるか、いろいろな可能性があるのではないか。そこが具体化してくると20年後にまた期待が持てるかなと思いました。中島委員、何かありますよね、どうぞ。

◎中島委員

長いこと町会のことをやっているのですけれどね。今いろいろとお話をうかがっていて、皆さん本当に理想論。まったく口で言うことは非常に簡単で、ものを書いたりすることも簡単なのですが、これを実践するということが誠に難しいことで、10人いれば十人十色と言いますが、やはり意見の相違が非常に多いです。

昔は、ものの考え方が非常に単純で、白黒で終わったので時間もかかりませんでしたけど、今はグレーゾーンが非常に多くなって、それは世の中が多様化しているせいなのですが、人間の心もいろいろなことを考えなければ暮らしにくくなっているから自然な状態なのですけれども、その多様化しているグレーゾーンの部分を、いかに白黒、よいか悪いか、決めていかなければ前に進みませんから。グレーゾーンで迷っているうちは実践に移せませんので、グレーゾーンの部分を白か黒かにはっきりさせながら前に進んでいくことを考えているのですけれど。

これは余談なのですけれども、先ほど申し上げていますように、一つの組織だけでものをやることには限界があるような気がいたしますし、もちろんこれから少子化ということを頭の中に置きながら。少子化になって、今のこどもたちが大きくなりますね、そうしたときに世の中がガラッと変わっているわけではないと思います。例えば、10の仕事があったら5になるわけはない。やはり、5の仕事をみんなこなしていくようになると思うのです。だから少子化になると負担がかかるという部分を想定しなければならないと思います。少しの人数でたくさんのことをやるということになりますので。だから今から考えなければいけないのは、連携・協働でしょうかね。できるところは組織と組織が連携をして協働でやっていく仕組みをつくって後世に遺していくという、仕組みをつくる必要性が今だからあるのではないかと思います。

実際、私のところでは、地域の企業の賛助会員制度を設けていまして、大田区に218町会あるのですが、うちしかやっていないようですけど、平成5年からやっておりまして、地域の企業も賛助会員という会員制度にして、会費をきちんといただいておりまして、総会に出席できる、発言も重要だというような、会員と同じレベルに持っていっていろいろ話し合いをする機会を設けているのです。

なぜそのようなことをしたかと言いますとね、緊急時に備えたのです。緊急時に、企業はたくさんあります、うちの方は、国道に面しておりますから。緊急時に、どれだけ事業者は町会自治会の

住民に協力してもらえるのかということをアンケートを取って始まったのです。やはり、同じ会員で会費をもらっていますので、話し合いの中でいろいろなものが出てきて、平常時は何もしなくてもいいのですけれども、やはり非常時の貢献、どういう具合にどういうふうに企業が貢献してくれるか。それからどういうふうに町会自治会、住民が受け答えをするか。日々住民はすることがあるから、企業に貢献することがあればいつでも言ってくれる。例えば企業のPR、広報ですね、というようなことがあったら、そういうものはチラシなり、回覧板なり、掲示板なりで、町会が配る等、広報しますよ、とか。お互いの問題ですから、一方的であればどうかと思いますが、お互いにやりくりをして、一緒になってものをやろうということがこれからもずっと必要になるのではないかと、考えております。

◎石渡部会長

ありがとうございました。大田区にある企業の貢献というのは、すごく大田区の特徴で、地域で耕してきた成果かなと思いました。澁谷委員、どうぞ。

◎澁谷委員

ありがとうございます、澁谷です。これからに向けてで、いろいろうまくいっているところもあれば、変えていかなければいけないところもあるだろうなと思っているのですが。

これからますますこどもの分野では質の部分が大事になってくると思います。アウトカムとしてはどうしても量的に評価する部分が出てくるのですが、やはりこどもたちがどう思っているか、あるいは子育てをしている当事者の方たちがどう感じているかというところに、もっと耳を傾けていくことが必要になってくるのかなと思っています。そのあたり、今後モノサシを考えるときにも一つの着眼点になるかなということは感じております。

施策のレベルでいくと、これからまた、国の動きが激しいので、そこについていくのもいっぱいいっぱいなのですけれども、サポートプランを今度こどもの分野でもつくりましょうという形になってきますので、それが本当に必要な方たちに必要なだけつくれるかどうかということが問われてくると思いますので、そのような形で相談体制も強化するといったときに、どうしたら強化したことになったのかというところを、基本構想のレベルでは議論し切れないかなとは思うのですが、これから具体的な計画を考えていく上では相談体制の中身というのもこれからますます問われてくると思います。

それからあと1点、今、非常時の話が出てきましたが、やはり災害の視点はこれからすごく大事になってくるかと思います。そのときにどうしても公的なサービスだけでは、特に災害時はなかなか手が回らないというのが現実ですので、市民一人一人が動き、そういうときに頼りになるような場所みたいなものをこの20年間でしっかりつくっていくということは、一つの着眼点として申し添えておきたいと思います。以上です。

◎石渡部会長

ありがとうございました。

それでは皆さんからたくさんのご意見が出ましてですね、この専門部会で議論しなくてはいけ

ないテーマについて大事なご意見をたくさんいただいていると思います。自治体経営というのがこの部会にも入ってきてはいるのですが、先ほどもあったように、これからは行政だけではなく、どう住民を巻き込んでいくかが大事になってくるというようなご意見もいただいていますが、このテーマに限らず、これからの大田区の未来を考えるときこのことを、というのがおありの委員の方いらっしゃいましたら、ぜひお願いをしたいと思います。ではどうぞ、大井委員。

◎大井委員

地域活動に関わらせていただくと、やはりこどもですとか高齢者ですとか、いろいろな分野で活用すると、区に相談すると「それは子ども課ですね」「それは福祉課ですね」「それはあそこに行ってください」と言われて、ずっと回っているうちになぜかスタートの地域力推進課あたりに戻ってきてしまって、あれって思ったりするのですね。

やっぱり地域でいろいろと混在して動こうとしているときに、行政も行政間の横断ではないですけれども、情報のネットワーク。多分防災のようなテーマはいろいろな課の方が一緒にやって出さないとクリアできないとか、いろいろなことがあると思うので、その情報発信ももちろんこどもたちもICTとかを勉強して、どんどんデジタルの能力が上がってくるのに、区はいつまでもホームページに情報を出しているからいいですというのではやっぱり足りないと思いますし、その区民のニーズになったときに、「どこの課に行ってください」みたいな何かそういうのではなく、行政サービスと言ってはあれですが、何かアクセスのところもうまくできたらいいのかなと思っていまして。

先に行くと介護や防災は区民の知識として持っていると、本当にそれが来たときに、「あ、これだ」という選択肢が持てると思うのですけど、全く知らない状態だと多分あたふたして「何もできません」という状態になってしまったりするのですね。

発信と、やりたいことに対するアクセスについて行政側も考えていただくというか、もうちょっとそこも、ちゃんとある施策がうまく伝わらない、通らないというのはもったいないなと思うので、そういうところもできたらいいのではないかなと思います。

◎石渡部会長

自治体経営に貴重なご意見をいただきましたし、今のような課題をどう乗り越えるかというところで、この基本構想の部会の設置とか、全体でどうというのがあるのかなと思いますが。あと他に、どうぞ中島委員。

◎中島委員

お願いがあります。議員さんが今4名出ていらっしゃいますので。私は、古くから町会のことをやっておりますと先ほど申し上げましたけれども、実は区民の代表であるのが区議会議員、変わりありませんよね、今も昔もね。従来私が若い頃の区議会議員の皆さんは、町会の悩み事、いろいろな問題点、そういうものを町会長のところに来たり、連合会長のところに聞きにきたりして。仲介の労をとっていただくというのかな、行政とのはざまに入って解決してもらう。なかなか地域だけでは解決できないことがたくさんありましたからね。ところが、今は全く、すみません、やっていらっしゃる委員の方がいらっしゃるのならごめんなさい。でも、私の方では皆無です。

これはやはり、元の形がすごくいいと思っていた、いつも。区民の代表であるということをまず認識してもらったら、必ずそういうものが返ってこなければおかしい。職員と同じような体制で今はやってらっしゃるように、私は失礼ながらそう思っている。なかなかその声が聞けないことが現実です。やっていらっしゃる方がいらっしゃると思います、いらっしゃったらごめんなさい。

そんな、うちの地域の問題ですけれども、やはり今日こういう場所で、基本構想の話をしていますけれど、その以前の問題ですよね、これは。こういうことを決めることも大事ですけれども、やはりどうあるべきかという地域のあり方もきちっと、議員の皆さんも把握していただいてですね。いろいろな問題点、地域の問題を解決してもらう、お知恵を拝借したいです。直接行政に行ってお話、なかなかしにくいです。それほど私たちみたいに古くなると、課長さん部長さんクラスは皆さん存じ上げている数が多いのですけれども、一般の町会とか、町会員の皆さんは、そういう便利さがないと思う。だから、役所に行くことが非常に億劫だし大変だって考えますと、地域でまだいっぱい持っているのですよ。ですから仲介の労をとってくださるのが議員の皆さんであるということです。

そういうことが今は本当になくなってしまって、非常に寂しい思いをしております。だから必然的に町会長が地域の役所の人たち、連合会の人たち、役所の連合会に携わっている人たち、出張所の所長等にお願いをして、それで解決してもらっているという例が多いです。

だから、そちらばかりを責めるわけではなく、あり方をつくらない住民の方も悪い。要するに出張所に行けば話がまとまるので、いいのではないかということで片付けてしまっているのは住民側ですから。お互いの問題ではあると思うんのですけれども、もう少し昔に返って、そうするとこういうところに論じる前に、ものが解決できるであろうという考えは持っておりますね。

基本構想を決めて、これからの行政のあり方を理解しながら、地域住民に還元されていくことは事実ですので、まあ、いい機会でもありましたけれども、とにかく、いい部分は昔に返ってやっていただきたいなという感じは持っております。以上です。

◎石渡部会長

ありがとうございました。行政と議会の議員の方にも、これからの姿として、ご意見をいただきました。ありがとうございます。

◎庄嶋委員

時間もないので中身の話ではなくて、今後の進め方について確認があるのですけれども。多分いろいろとまだまだ大田区の強みとか、課題とか、上げきれてないものがたくさんあって、皆さんの発言、この時間の中で、遠慮されて発言されていないものもあると思うのですけれど、それらを次のこの部会までの間に、何か出せる方法があるのであれば、何か出した方が結果として基本構想をまとめていく上ではネタも増えるしいいのかなと思うのですけど。部会長として何か。

◎石渡部会長

部会長としては、やはりそういう声をたくさんいただきたいと思いますので、事務局がどんな形であっても受けとめていただく、寛大さがほしいなと思いますので、ちょっとそこはもうすでに考え

ていただいているかとも思うのですけれども、お願いできればと思います。というご意見を庄嶋委員からいただくと、ちょうど時間ぴったりだけれども、まだ皆さん、いくらでも言っていいのですよ。ぜひお願いをしますねというつながりもできてきそうなので、本当に今日は貴重なご意見をたくさんいただいて、大田区についてたくさんまた今日は知識を得たし、何か期待するものも新たに生まれました。また次回以降もよろしくお願いいたしますということで、進行を事務局にお返しいたします。どうもありがとうございました。

◎齋藤部長

皆さん貴重な意見の数々ありがとうございました。今モニターに映させていただいておりますが、区民の皆様等からの意見募集ということで、先ほど保護者とお子さんのアンケートをいただきましたが、現時点で約15,000件ということ。

実は今の基本構想をつくるときにいただいた意見が1,500だったのですね。すでに10倍、この基本構想では意見をいただいています。ネット社会ということがありまして、意見集約が非常にし易くなったということもあるのですが、それだけにとどまらず、今後も一般区民向けアンケートであるとか、施設を活用したアンケート、それからワークショップもやりますし、その他の区民参画手法ということで高校生、大学生、外国の方や商業施設、こういったあらゆる機会を通じてまだまだ意見を募集したいと思っています。

委員の皆さんの意見もこの専門部会だけで終わりということではなくて、可能な限り、当然つくるにあたっては一定の締め切りはありますが、そのお時間が許す限りご意見をいただければと考えてございます。その点はよろしくお願いいたします。

それからいただいた意見の中で、SDGsのことがあったと思います。それについてはこの基本構想が大体2040年頃を目途にということで、またSDGsの目標年次が2030年ではあるのですが、途中経過ということにはなりますが、SDGsは2030年さえ過ぎれば終わりということではなくて、それを取っ掛かりにしてその先の大田区としての事業展開をどうするかということにも関わってまいりますので、ぜひ私どもとしてはその要素も入れ込んでいきたいと考えてございます。

それから関連して、今回SDGs未来都市に選ばれたということで、「新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市」という提案をさせていただきました。その中で、経済・環境・社会の3側面を融合して、ということでの提案をして、このたび内閣府から認定されたわけでございますけども、経済については当然中小企業のまち・大田の特徴を生かしたいということ。それから環境は、環境規制をすることによって事業者の皆さんを困らせるということではなくて、むしろビジネスチャンスにつなげていただきながら、お互い伸ばしていこうという意味で、経済と環境の両立ということを考えております。

それと同時に社会というのは、これからのイノベーションの担い手、こういう方を育成していくという側面が非常に大事でございますので、委員の皆様方からもご意見をいただきましたが、そこを入れさせていただいてございます。こんなこともありますので、福祉、それから子育ての分野ではありますが、あらゆることが関わってくるのかなと思っておりまして、そこを総合的に勘案しながら、今後の基本構想審議会のたたき台につなげていきたいと、このように考えてございます。どうも、ご意見ありがとうございました。

それでは続きまして、今後の予定ということで事務局からお願いします。

◎野村課長

事務局より今後の予定について説明させていただきます。第2回の専門部会は令和5年8月31日の17時から19時の開催で、場所は本庁舎内5階会議室を予定しております。

本日の部会でいただいたご意見等を事務局でまとめさせていただくとともに、先ほどご意見もありましたので、こちらの会議外でも、言い切れなかった意見を集めることを会議外で別途ご案内させていただきますので、そういったご意見と、あと区民アンケートの結果についても、自由記述と併せてより詳細に結果をお示しさせていただきますので、それらを基に将来像についての検討を進め、第2回審議会に部会として上げていく意見を固めさせていただきたいと考えてございます。

なお全体会である第2回の審議会は、10月開催を予定しておりますので、詳細が固まり次第ご連絡させていただきます。今後の予定については以上です。

閉会

◎齋藤部長

それでは、多少時間を超過して大変恐縮でございますが、以上をもちまして、第1回専門部会「子ども・福祉」部会を終了させていただきます。皆さんお疲れ様でございました。

以上